

標高1200m真冬は氷点下10℃程まで気温が下がり刺すような寒さだった浪合パークですが、大寒を過ぎようやく気温が上がりはじめて来ました。

閉鎖していた鑑賞エリアも昼間の日差しで少しずつ積もった雪がとけてきました。さて2月2日は「節分」、そして3日は「立春」です。まだまだ寒いこの時期ですが、二十四節気ではもう春の始まりとなります。立春は、新しい1年の始まりとしての春を伝えてくれます。気が付けば、にぎやかな冬の星座の後ろから、もう春の星座たちも上がってきています。

2月の夜空

- 1日 (土) (12:53頃) 土星食 ①
- 2日 (日) 節分
- 3日 (月) 二十四節気「立春」
- 5日 (水) ● 上弦
- 12日 (水) ● 満月
- 15日 (土) 金星が最大光度 (-4.9等) ②
- 18日 (火) 二十四節気「雨水」
- 21日 (金) ● 下弦
- 28日 (金) ● 新月

2月オススメ星座

ぎょしゃ、おうし、オリオン、  
おおいぬ、こいぬふたご、うさぎ、  
カシオペヤ、アンドロメダ、  
ペルセウス、おひつじ  
おおぐま(北斗七星)



今月の天体イベント①

土星が月に隠される「土星食」  
～真昼に土星が見られる！？～

天体が天体を隠す現象を「星食」と呼びます。「月食」「日食」「惑星食」など珍しい天文現象ですが、今回は日中に起こる「土星食」。

昼間に土星を見られるチャンスとも言えます。土星を隠すのは月ですから、昼間の月を見つければ近づき隠れまた出現する土星に会えるのです。

当日、月齢3.0の細い三日月が太陽の左側にあります。土星は12時53分ころ(阿智村で計測)月の左側下部(影の部分)から隠れ、13時12分頃光る月の右下から出現するでしょう。

2～3分前から月を観察することをおすすめします。双眼鏡か望遠鏡で観察するのがおすすめです。

(図参照→)

今月見頃の天体

- M45すばる、
- ぎょしゃ座～ふたご座の散開星団
- M42オリオン大星雲
- M31アンドロメダ銀河
- ペルセウス座二重星団h-x

= 惑星 =  
火星、金星、木星

2月1日白昼、土星が三日月に隠れる



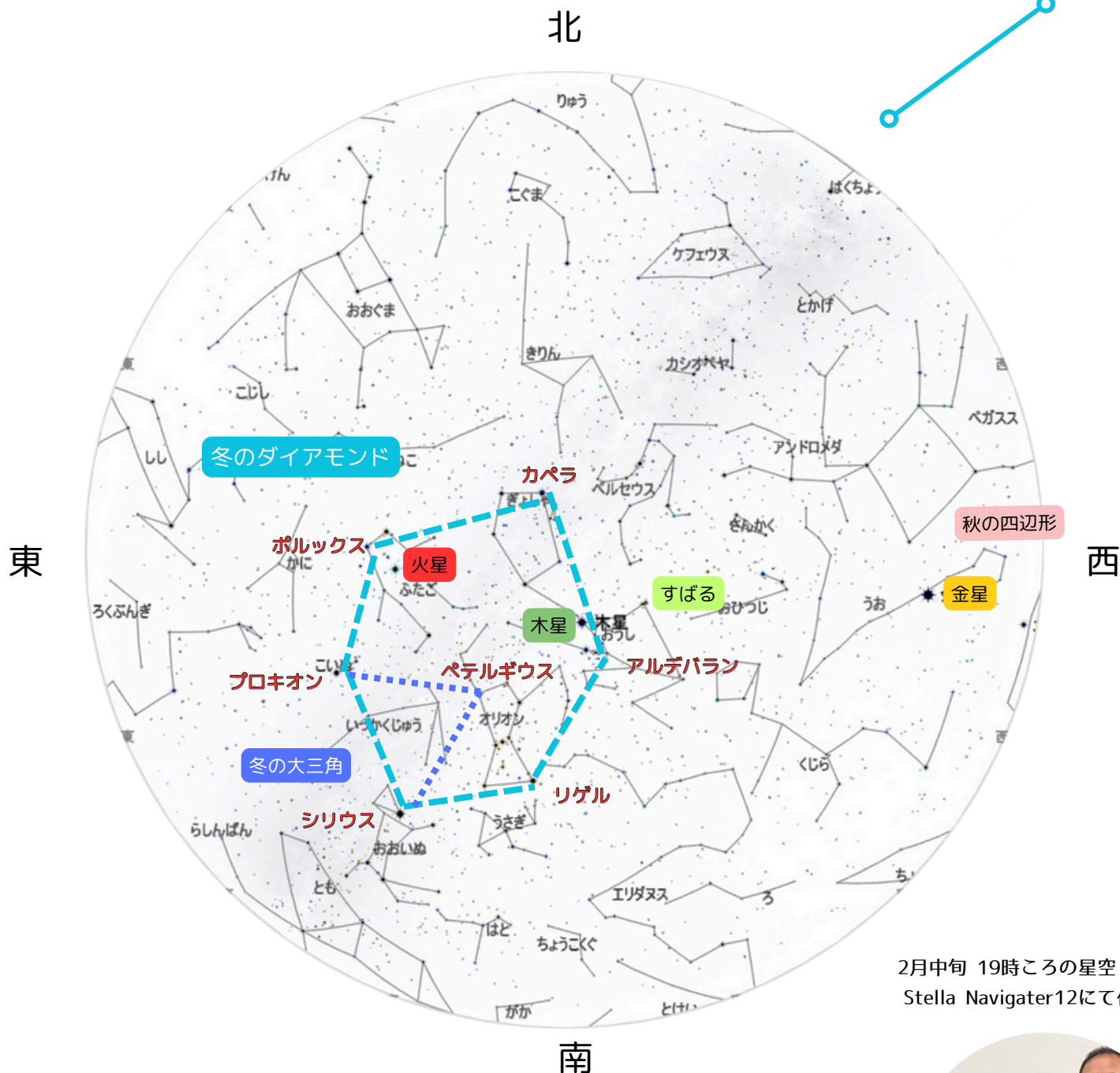
今月の天体イベント②

金星が最大光度 -4.9等

秋のころから夕方西の空に輝いていた金星が、この2月15日-4.9等と最大の明るさに達します。1等星をはるかにしのぐ明るさで誰でもそれとわかりますので、日没後のまだ青い空に「1番星」を見つけましょう！

## 1等星が七つ！「冬のダイヤモンド」「冬の大三角」をさがそう！

2月は1等星を持つ冬の星座が高く上っています。オリオン座にはベテルギウスとリゲル、おうし座のアルデバラン、ぎょしゃ座のカペラ、ふたご座のポルックス、こいぬ座のプロキオン、そしておおいぬ座のシリウスと、六つの星座に、なんと七つもの1等星が輝きます。この六つの星座はぐるりと輪になって並び、それぞれの星座の1等星をつなぐと「冬のダイヤモンド」（冬の六角形）が出来上がります。また、残りのオリオン座ベテルギウスとプロキオン、シリウスを結べば、「冬の大三角」となります。この冬は金星・木星・火星も明るく輝くため、星座さがしの「邪魔」をしそうです。惑星が「惑わす星」と書くのもなるほどですね！



2月中旬 19時ころの星空  
Stella Navigator12にて作成

### 記事を書いた人

星空案内人認定制度により、2015年に「星空案内人」となる。飯田市美術博物館プラネタリウム解説員として5年、阿智村「天空の楽園 ヘブンスそのはら」にて星空ガイドを6年担当。わかりやすい解説、もっと星を見たい、知りたくなる星空ガイドを心がける。小さな天文学者の会会員。長野県プラネタリウム連絡協議会会員。



星空案内人 川手俊美